

【30】 本末転倒

近年、太陽光発電（ソーラー発電）のパネルが都市域以外では山地、丘陵地に設置され、とくに山林の樹木を伐採して乱開発の様を呈し、豪雨による土砂崩壊を生じたりして問題になっています。

自然エネルギーというと風力発電、ソーラー発電の他にバイオマス発電というのもあります。自然の植物由来の原料を燃やして発電するもので、本来の趣旨では、穀物の麦ワラ、稲ワラなどの非食用部分、樹木では間伐材、オガクズなど製材のカスなど、従来は廃棄されていた資源を有効に利用するという触れ込みです。

しかるに補助金と一般電力の最高4倍にもなる高価格買い上げ制度のせいで、手間のかかる廃棄物の収集より価格の低迷している丸太を買って発電している例も見られるといえます。

（『森林で日本は蘇る』白井裕子・新潮新書）

原料の大豆の値上りで豆腐や食用油が近々値上げされるそうですが、その原因の一つに食用可能な大豆そのものをバイオマス発電に使っている（日本ではないらしいが）ことにもあるといえます。

自然エネルギー発電の理念は、地球環境問題への対処という高尚なものであるはずですが。しかし、現実に行われている経済活動は、環境破壊だったり、食用可能な貴重な農産物をわざわざ燃やしたりと下品な話に墮落するとは、どこがクリーンだかグリーンだか、一市民としての私には理解しかねるところです。